

高  
専

# 有明高専だより

第97号  
1999.2



九州地区大会 優勝「SUKA PATONG」



九州地区大会 技術賞「YAMATO」

# わくわく 科学体験!



開会式 光安福岡県教育長



気分は化石色～化石に親しもう～

# ジュニア・サイエンスフェア

11月8日(日)、福岡県教育委員会と有明高専の主催でわくわく科学体験！「ジュニアサイエンスフェア」が本校で開催された。これまでのジュニアサイエンスフェアは北九州や福岡市近郊で催されてきたが、第3回目の今回は筑後地区の子供たちを対象にとのことで有明高専を会場として行われた。これは近年小中学校の子供たちの理科離れが指摘されていることから、子供たちに科学の楽しさを味わってもらうとともに、科学に対する興味や創造性を培ってもらうことを目的とした催しである。開会式では光安福岡県教育長の挨拶に続き、このサイエンスフェアのポスターとして作品が採用された子供や福岡県小中学生科学研究作品展に入賞した子供達が教育長によって表彰された。その後、本校の田口先生による「高専ロボットコンテストを楽しく見る方法～ロボットのアイデアとしくみを探る～」というテーマで科学講演が行われた。副題どおり、ロボットのアイデアとその仕組みをわかりやすく話され、門外漢にも興味深い講演であった。



(E科) 電気を作ろう

体育館や運動場では、福岡県内の小・中・高校の先生方が28の実験講座を開かれた。当日は晴天に恵まれ1400人余の小中学生や保護者の方々の来場があり、どの実験講座でも説明に興味深く聞き入る子供たち、真剣に手を動かし、紙ブーメラン、葉脈のしおり、ピンホールカメラなどをつくる子供たちの姿が見られた。とりわけ運動場での「水口ケットを飛ばそう」の講座では多くの小学生であふれ、思いのほか遠くまで飛び水口ケットに歓声があがっていた。本校からも「試作ロボットを動かそう」(M科)、「電気を作ろう」(E科)、「情報を伝えよう」(I科)、「ブドウ糖の味を試そう」(C科)、「風の力を体験しよう」(A科・総合実習センター)というテーマで、子供たちにわかりやすい実験講座を開き、好評であった。各講座を開くにあたり多くの先生方に何度も予備実験をしていただき、筑後地区で初めて開催されたこの催しを成功裡に終えることができた。



(M科) 試作ロボット



(C科) ブドウ糖の味を試そう



科学講演 田口 紘一先生



(A科・総合実習センター) 風の力を体験しよう



ジェットコースターの秘密を探ろう

## 【目次】

ジュニア・サイエンスフェア	2
プロコン・グラフコンクール等	4
シリーズ「研究室訪問」	5
特集 卒業生対談	6
特集 ロボコン'98	8
小文化祭	10
シリーズ「人物・いま」	11
学生参加行事	12
シリーズ「クラブ紹介」	13
学寮だより	14
学生会だより・クラブリーダー研修	15
建築設計競技・編集後記	16

## ◆第9回プログラミングコンテスト ～ルネッサンスの予感～

10月3・4日、明石でプログラミングコンテストが行われ、私達は競技部門に出場しました。システムの開発はメンバーがすべて5年生ということで、体育祭の準備や卒業研究と並行に進めていきました。

試合は、システムの完成がぎりぎりだったのと緊張していたのもあって、本選・敗者復活戦ともに2回戦で敗退してしまいました。

しかし、課題部門や自由部門の出展作品を見たり、他の高専の人達と交流することができ、参加して本当によかったと思います。  
(5 I 石橋和子)



## ◆福岡県統計グラフ・コンクール ～特別奨励賞に入賞～



2 M 高井良祐美

私は、この「全国統計グラフコンクール」に応募したきっかけは、母に「だしてみたら」とすすめられたからです。そして、このコンクールに作品を出すのは初めてだったので、どのように書いていいのか、あまりわかりませんでした。

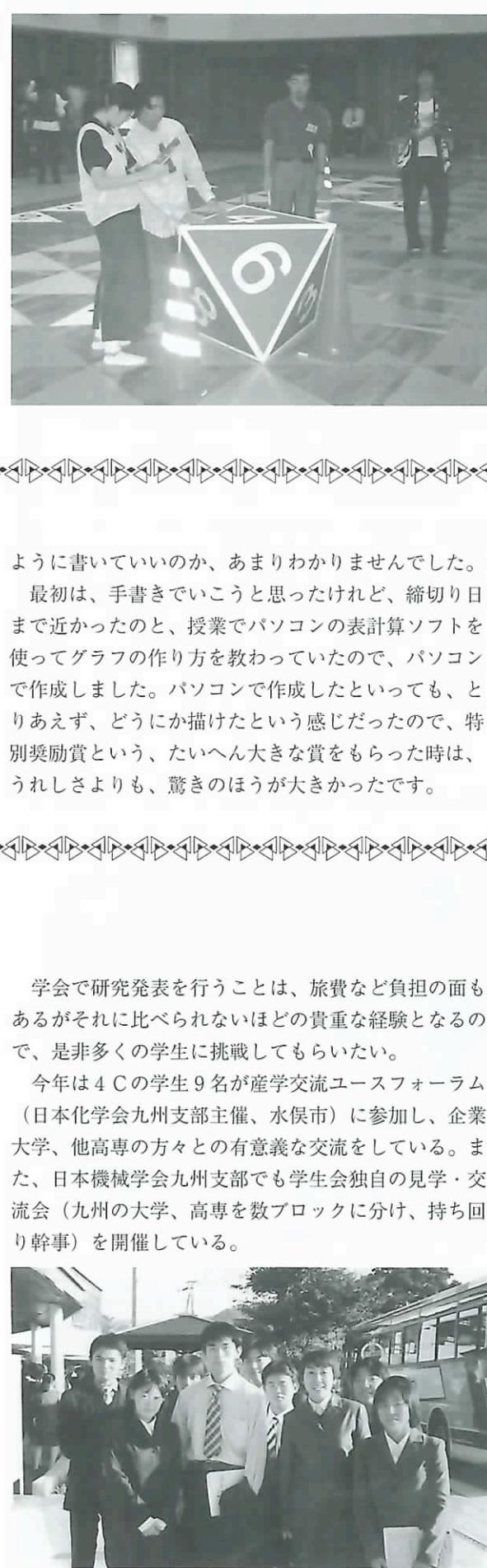
最初は、手書きでいこうと思ったけれど、締切り日まで近かったのと、授業でパソコンの表計算ソフトを使ってグラフの作り方を教わっていたので、パソコンで作成しました。パソコンで作成したといっても、とりあえず、どうにか描けたという感じだったので、特別奨励賞という、たいへん大きな賞をもらった時は、うれしさよりも、驚きのほうが大きかったです。



## ◆学生の学会活動について

化学・生物系では高専独自の学会活動として「高専フォーラム」「高専シンポジウム」が毎年開催されている。これは日本化学会九州支部からの勧めもあり九州6高専が持ち回りで「高専フォーラム」を開催するのが始まりである。特別講演、高専に関する諸問題の意見交換、懇親会等の活動を通して、高専間および地元企業との交流、連携を深めてきた。今年で8回を数える。「高専シンポジウム」は研究発表を主体として高専フォーラムと併せて開催されるようになり、今年1月の開催（鈴鹿高専）で第4回を数える。高専の教官、専攻科学生、本科学生が同じ土俵で発表するユニークな学会活動である。第3回「高専シンポジウム」には本校学生2名が研究発表している。

日本機械学会では各支部毎に学生会を設け、「卒業研究発表講演会」を開催している。大学学部、高専学生の発表会である。今年で第30回を数えるが本校からは過去9回に渡り14件の研究発表をしている。そのうち4件については「工作機械技術振興財団」より表彰（毎年全国から10件程選ばれている）を受けた。今年も1件発表予定である。



(写真は第9回産学交流ユースフォーラム参加学生)

## シリーズ

# 研究室訪問

荒木先生

■今日は、一般教育科目数学担当の荒木眞先生の研究室を訪問し、先生の研究について伺いました。

一口に数学と言ってもいろんな分野があるのでしょ、先生のご専門はどんなものですか？

そうですね、解析学と言う分野のなかの、偏微分方程式のある一部を扱っています。

よく分かりませんけど？

まあ、ニュートンやライプニッツが微分積分を構築して以来、天体や物体の運動を記述する方程式を立てその解を調べて新しい惑星の発見がなされたように、ある物理現象を記述した方程式の解を調べることによってその様子や予測に役立てようと言うわけです。その方程式もいろんな形があって、私は橍円型の退化するような型を扱っています。

もうそういう方程式は出つくしているのでは？

いいえ、科学の発達によって新しい物質の出現や、新しい資源の開発、海洋、気象、地震など、自然、人工も含めて、現象に対する人間の興味の対象は尽きないので、それに対応する式も尽きないと思います。

すごいですね、そんな方程式を作っているのですか？

いいえ、残念ながら最新の技術や実験の現場に接していないし、やはり現象を現場で目の当たりにしながらでないと、ちょっと出来ないのでないでしょうか？私はオリジナルにはやっていません。しかし、なんと言っても人間がいろんな仮説をたてて方程式を立てているのです。現象そのものを完全に表わしているわけではありません。言うなれば、写真やまだデッサンかもしれません。描ききれていない部分や、余計なものが写っていました。方程式の中に解析出来ていない思

わぬ落し穴が潜んでいたりするのです。やはり、最初にした人はいろんな試行錯誤や無駄をやっていますので余計なことや、成果を急ぐこともあってか以外な見落としがあるのです。コンピュータで強引に計算しますが何度も計算してうまく現象に合う結果しか発表しないものもあるのです。そういう所を見つけて深く検討するのです。解は一つしかないのか、解は滑らかなのか、解の漸近的挙動は、コンピュータによる数値計算の精度は、他にエレガントな解法がないか、さらに一般化して発展させるとか。なんか、これまでの典型的な日本工業技術界的一面をうかがわせるような話ですね。オリジナルはないけどうまく製品化して売り込むとか。（笑）しかし、これは、私の場合であって他の方はきちんとさっていますので誤解のないようにして下さい。また数学は他にいろんな分野があること

を付け加えておきます。

数学に興味を持ったきっかけなどありますか？

そうですね、私が小学生の頃、何気なく週刊誌を見ていたら、眼鏡を掛けた瘦こけたおじいさんの写真が載っていて、なにか思いついたら道路に座り込んで式を延々とやり始めるような人らしい。ぼくは、それまで職業といえば八百屋さんとかパン屋さんとか農業とか汽車の機関士とか学校の先生位しか知らなかったので、こういう非生産的活動で飯が食えるということにいたく感動して、これが文化だとひとり勝手に感心していました。また、原子爆弾で物理学の威力を知られましたし、アメリカの工業力にひれ伏し、経済も含めいろいろな戦略に数学が使われているのを知られ、さらに人工衛星に始まった米ソ宇宙ロケット打ち上げ競争等の刺激によって、日本も科学の分野で世界に遅れまいと我々少年も理数科目を勉強したんですね。当時は大学入試も医学部より工学部の方が点が高かったのではないでしょうか。とにかく、科学に夢が持てたのです。しかし、今は科学の行き過ぎが指摘され、科学の発展が人類や地球の為に良いことなのか疑問視されるようになってきました。今や、科学が人類はもちろん地球に果たす意義を子供達に示してやらねば、子供達が科学を学ぶ意欲を起こせないのは当然のような気がします。新しい科学哲学が必要なのに、今や、哲学という言葉すら聞かなくなってしまった。

ちょっと難しい話になってきましたね。高専の学生になにか。

大学が高専から編入生を受け入れるようになりましたが、工科系ばかりでなく数学や経済など広い範囲に及んでいます。工科系の知識を生かして文系や経済学への高専からの進出を期待します。

（聞き手：三戸 健司）



# 卒業を前にして



(松野教官)

司会：今日は、各学科を代表して1名ずつ出席していただきました。今回は、高専生活5年間を振り返って特に印象に残ったこと、楽しかった思い出、これから抱負などを中心に話を聞かせて下さい。

渡辺：やっぱ、いちばん印象

に残っていることは今年の体育祭でしょうね。誰でもそうだと思うんですけど、自分が上の（学年の）ときの大きな行事で、自分達がひっぱっていったやつですからね。達成感というのがありますよ。優勝してないから残念だなという気持ちは強くありますけどね。

司会：渡辺君はどういうところで頑張ったのかな？

渡辺：いろいろしましたね。バックボード、スタンド、あと、マスコットの仕事とか…。人一倍忙しかったですね。でも楽しかった。

堤（章）：僕も体育祭が印象に残っています。クラスが一つにまとまったような気がして…。負けてしまつたんですけど、そんなことよりも、とにかく、いちばん楽しくできたなと思いました。

徳永：体育祭ですね。応援団長というのを初めてしたけど…。下は4、3、2、1と4学年あるじゃないですか。応援団だけでも、いろいろさせるのに時間がかかるし、なかなか思うようにいかなかったです。



(5A 堤(朋))

司会：そうだな～。私も体育祭を（普通高校で）経験したけど、高専は5学年もあるから普通高校のそれは感じが違うだろうね。堤さんは？何が印象に残っていますか？

堤（朋）：いちばん思い出として残ったことは、部活とか体育祭とか球技大会とか…。クラスや学科で一丸となってやったことです。体育祭では、今年が最後で一番上（の学年）で、応援のふりつけとか衣装を考えたりとか、みんなでやったことが、とにかく楽しかったです。就職したら、こんなことはもうできませんよね。

石橋：私も体育祭です。

司会：ううむ…。みんな体育祭か…。（笑）

石橋：1年生とか3年生のときは、なんで5年生の

人は、あんなことを言うんだろうかと思っていたんですけど、自分が5年生になって、どうして、そんなこと昔は5年生の人は言ったのかとか、5年生の苦労が少しありました。5年生は下の学年に、もう少し仕事をさせるとかして関わらせたほうが下の学年の学生もやる気がでるんじゃないかな…。

司会：みなさん体育祭が大変印象深かったようですね。他には何か…。

渡辺：部活ですかね。それと、寮、ですかね。

司会：部活、といえば渡辺君は弓道でしたよね。弓道って、どんな感じのものですか？

渡辺：弓道は自分との闘いです。サッカーとか野球でのプレーみたいな助け合いはないんですけど、精神的な面での助け合いとかメンタル面でのチームのつながりとかは、サッカーとかバスケに負けないぐらいあると思います。それから、寮について



(5I 石橋)

ですけど、寮は、1年生のときはすごくきつくて…。

1年生のときは（先輩たちから）すごく厳しい指導があってですね、そういうのがあったから、最初寮に入ったときは、つらい思いしてましたけど、今思えば楽しい思い出です。

司会：堤君はどうですか？体育祭の他に印象に残ったことは？

堤（章）：クラスのみんなと遊んだりとか、そういうことでの思い出はたくさんあるんですけど…。

司会：ええと、堤君は豊橋技科大の生産システム科に進学するなんでしたよね。

堤（章）：そうです。

司会：それでは、進学するにあたって、今後の抱負について語ってもらえないでしょうか。

堤（章）：僕が進学することを選んだ理由は、高専5年間では、まだ学び足りないのではないか、まだ十分な力がついてないんじゃないか、と思ったからです。機械工学科で機械のすごく専門的なことを学んだんですけど、ちょっと違う専門のことについて勉強したいと考えました。それから、大学に行ったからといったって、勉強ばかりするのではなくて、いろんなこと、サークルとか、やってみたい。そういう意味も含めて大学に行くこともありますね。

出席者 ●堤 章徳 (5M) ●渡辺 貞治 (5E) ●石橋 和子 (5I)  
●徳永 純一 (5C) ●堤 朋子 (5A) ●司会 松野 哲也教官 (1科)

司会：渡辺君は今後の抱負とかありますか？

渡辺：お金持ちになりたいですね。（笑）

司会：就職先のオリンパス光学工業では、お金持ちになれそうですか？（笑）

渡辺：就職したら、きっと自分の知らないところとかに行ったりするだろうから、そこで友達をたくさん作って、とにかく自分の行動範囲をどんどん大きくしていくって、もっと自分を大きな人間にしていきたいですね。小さくまとまりたくない…。体がちっちゃいから。（笑）

司会：徳永君はどうですか？徳永君は九工大の応用化学科に進学するなんでしたよね。

徳永：僕がそこを選んだ理由は特にはないんですけど、とにかく大学に行ってみたかったというのがあります。それから、化学的なことを学んできたから、もうちょっと深くやってみようと思いました。大学に入ったら、一人暮らしをします。寮生の人たちと自分をくらべると、今までずいぶん甘えた生活をしているからですね。一人暮らしをして、ちゃんと自分でも生活ができるように力をつけたいです。

司会：堤さんはJR九州に就職されますが、そこを選んだ理由は？

堤（朋）：女子は就職は厳しかったんですけど、限られた選択肢の中で、自分の学んだことが、いちばん生かせそうなところがそこでした。

司会：ところで、堤さんはテニス部でしたね？どうでしたか、部活動は。

堤（朋）：高専の5年間で一番頑張ったことは、部活を5年間続けたことです。はじめ1年生のときに入ったときは同学年に5人いたんですけど、4年5年のときには同学年は一人になりました。それで副キャプテンになったときには相談する人がいなくて苦しんだこともあったんですけど、先輩に話を聞いてもらったり、後輩も気遣ってくれて、それに、高専大会の出発時に千羽鶴をもらって、本当にうれしくて、それだけで、5年間やってきたかいがあったと思いました。高専に入ってはじめてテニスをしたけど、していくうちに（いい）成績が残せるようになったとか、自分でも、「ちょっとは上手になったかな」とか思えるようにな

りました。後輩にも言うんですけど、やめたらそこで終わってしまいます。最後まで続けて、それで、いいものが残るのだと思います。

司会：石橋さんは、松下電工ソフトウェアに就職されますね。

石橋：そこは松下の子会社で、今年にできたばかりで、やりたいソフト関係の仕事が出来るということで、そこにしました。

司会：石橋さんは、97年プロコン（プログラムコンテスト）優勝者ということですけど。

石橋：去年、はじめてプログラムコンテスト（競技部門）にでたんですけど…。優勝しちゃったんですね。（笑）3人一組のチームでした。運がよかったんですね。

司会：なかなか控えめな…。（笑）

石橋さんはコンピュータ研究部に所属されてましたが、その部に入るきっかけは？

石橋：私は中学校のときは美術部で、高専に入ったら、美術部に入ろうと思っていました。でも、美術部はなかったんですよね。

渡辺：美術愛好会があったのでは…。

石橋：愛好会はあったんですけど、そこは学校で活動するのではなくて、家で描いてきた絵を小文化祭や高専祭で展示するという話を聞いたので…。そのうち、コン研（コンピュータ研究部）の友達がパソコンを使って絵を描いていることを知りました。話を聞くと、それなら私もできるかなあとと思いました。

だから、コン研に入った目的は最初はプログラミングじゃなかったんですね。（笑）

司会：今日は、みなさんから色々楽しい話を聞かせてもらいました。もっといろいろ聞きたかったんだけど、掲載スペースの都合により（笑）これで、まとめさせてもらいます。高専生活で学んだいろいろな事を、これから的人生において上手に生かしていってください。どうも有り難うございました。



(5E 渡辺)

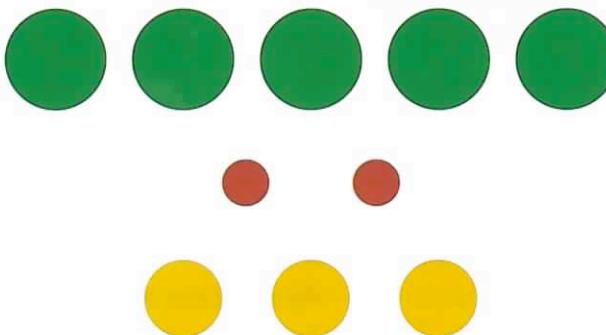
# NHKアイデア対決・ロボットコンテスト'98 ~生命上陸~

## 九州地区大会

平成10年10月10日(日) 於 佐世保文化体育館  
★ DIYチーム 優勝 ★ 5Mチーム 技術賞

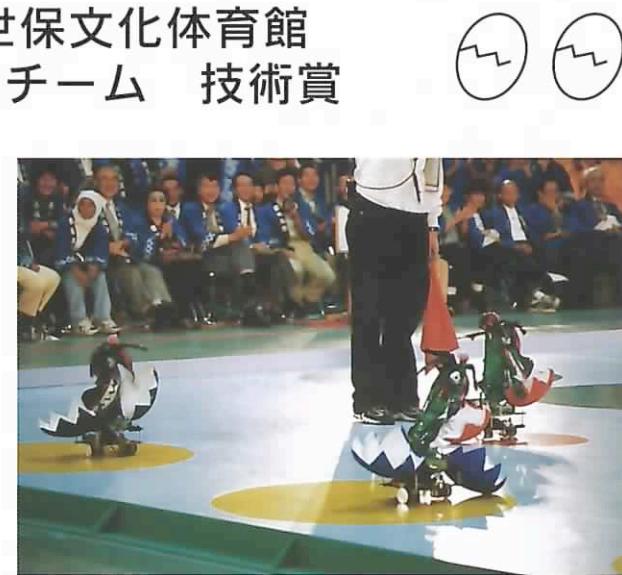
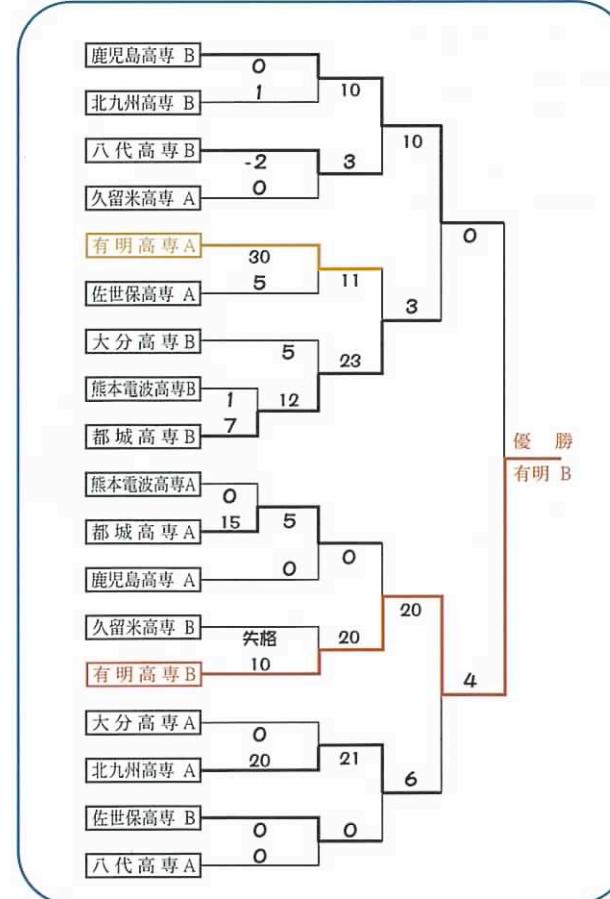
今年のテーマは、生命上陸で、出場チーム自作の「種子」や「たまご」を大・中・小10個の島に移動させ、その島内で「生命」を誕生させて、その島の獲得点数を競い合うものです。

島は直径が異なる3種類の円形であり、小なる島を獲得すると10点、中なる島は5点、大なる島は1点です。



● 緑(大) / 1点 ● 赤(中) / 10点 ● 黄(小) / 5点

## 地区大会トーナメント表



5Mチーム

私たち5Mチームは、ワンチップマイクロコンピュータを用いた自動走行ロボットでロボコンに挑戦しました。あらかじめパソコンを使ってプログラムを組むと、その通りに目的の島に向かって走っていきます。今回、この自動走行を可能にしたのがC言語でプログラムが組めるマイクロコンピュータH8のおかげでした。私たちは絶対の自信を持って、ぎりぎりまで会場フィールドに合わせてセッティングを行っていました。そんなとき、ちょっとしたミスから六台ある子機ロボットのうち二台のコンピュータが焼けてしまい、非常に厳しい状況に追い込まれました。自慢のマイクロコンピュータも希少なため予備がなく、結局四台の子機ロボットで本番にのぞみました。一回戦では正確に目標をとらえた私達のロボットが快勝するとともに、その動きの正確さが非常に評価されました。二回戦では、去年全国大会で優勝した都城高専との対戦でした。実は都城高専は、去年の地区大会のときにも準決勝で対戦し、ゲーム的には勝ったのに、芸術点で敗れたという因縁の相手でもありました。足を止めるために一台目のロボットを相手の正面に放ちましたが、既にその作戦は相手に読まれていました。私達のロボットをかすめて目標に向かって走って行きました。残り三台のロボットではその勢いを止められず悔しい結果になりましたが、その技術が評価され、技術賞をいただきました。

【5Mチーム】 5M 坂本武司 5M 長谷 学 5M 下村卓児

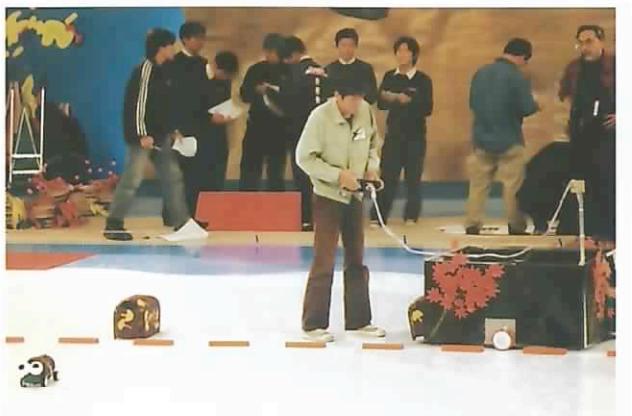


## 全国大会

平成10年11月22日(日) 於 両国国技館  
★ DIYチーム 憧しくもベスト8

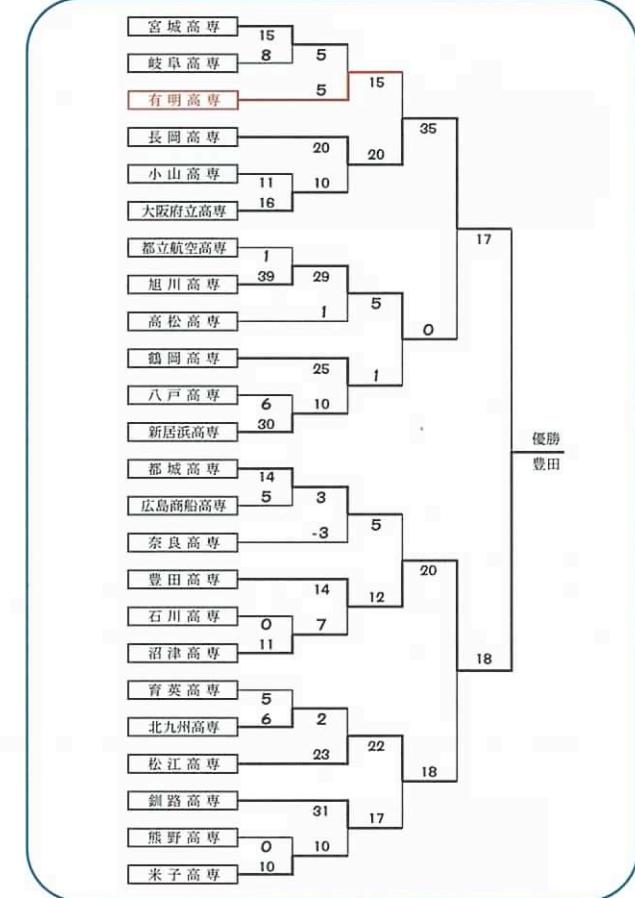
10月11日、僕たちが製作したマシン「スーカーパークタウン」が九州地区大会で優勝し、全国大会へ出場することになった。優勝した喜びも束の間、僕たちは全国に向けてマシンの改良を始めた。思いもしなかった全国大会出場に、みんな大喜びしたもの、終わるはずだった今までの製作活動の苦しみがまた始まるのだと思うと、正直なところ「これから一ヶ月、またやっていけるのだろうか」と不安になった。僕らのマシンは自分で言うのもなんだけど、完成度が非常に高く改良するとなると「大幅な改良か、ちょっとした調整や補修かのどちらかしかない」と思った。しかし僕たちは、自分たちがアピールしたい「コンセプト」を変えたくなかったので、大幅に変更するのは止めて、より速く、より安定した、確実に自分の種子を出すことができるようにして重きを置き、改良を始めた。しかし、製作費がなく新しい部品を買いたくてもあまり買えなくなってしまった。一ヶ月間の計画もうまくたたない。しかしそれでも僕らは一ヶ月間必死に「努力」を繰り返した。いよいよ東京へ旅立つ時がきた。初めての全国大会だったことと、めったに来ることのない東京という地を前にして、僕の緊張と不安はピークに達し、飛行機と電車の乗り継ぎで気分が悪くなり、何度もトイレに駆け込んだ。国技館に着き、ようやく気分も良くなってきて何とか計量、テストランも終わらせ、前日はあっという間に過ぎてしまった。大会当日、僕たち三人は「いつも通りでいこう」と自分たちを落ちつかせながら、試合にのぞんだ。惜しくも順々決勝で負けてしまったものの、全国大会という大きな目標にここまで近づけたという満足感でいっぱいだった。

【DIYチーム】 4M 岡田光弘 4M 澤村啓輔 4E 古園井洋治



DIYチーム

## 全国大会トーナメント表



DIYチーム

おわりに、ロボット製作にあたりご協力をいただいた校長先生、本校後援会ならびに実習工場の方々に厚くお礼を申しあげます。また、全国大会の応援に来ていただいた諸先輩方にもお礼を申しあげます。

# 文化祭

## ○文化講演 (平成10年10月28日)

演題 「マラソンから学んだこと」

講師 君原 健二先生 (メキシコオリンピック銀メダリスト)



マラソンにひた向きに取り組んでこられた求道者としての先生のお姿は、講演会場である体育館の空気に水晶のような緊張感を付与し、体験に基づいたお話にはおのずと重みがあり、1,000名余の学生は私語一つしないで最後まで講話を聞き入った。

初めに、スポーツは一流選手だけのものではなく、誰にでも楽しめるものであることやスポーツの意義などを、ボストンマラソンを例に上げ、家族の絆の大切さも折り交ぜながら紹介された。本論では、スポーツが得意であったわけではなく、むしろ劣等感を抱いておられた先生が、この劣等感をばねとして向上心に目覚めた経緯や、

もう少し頑張ろう、もっと工夫しようと絶えず努力してきた自分の生き方を紹介しながら、何が人生で大切であるかを語られた。その中で、次の二つのことを特に強調されたように感じた。

一つは努力の大切さ。例えば、紙一枚ではその厚みは見えないが、何十万枚も積み重ねるとたいへんな高さになる。努力も同じで、短期間の努力で得られるものは微々たるものあるが、微々たるものでも長く継続していると大きな成果をもたらすものである。無駄な努力など一つもないと訴えられた。

いま一つは目標について。目標があって初めて達成感があり、喜びを感じることができる。たとえ小さな目標であっても達成すれば次の新しい目標ができ、向上していくものである。目標のない行動ではたいした成果は期待できない。自分も一つ一つ目標を達成していくうちに、いつのまにかオリンピックに出場するまでになっていたと、目標を持つことの重要性を説かれた。

最後に、ヒンズー教の教えにもあるように、心の変化→態度の変化→行動の変化→習慣の変化→人格の変化→運命の変化→人生の変化といったつながりがあることを考えると、人生を変えるキーワードはつまるところ自分の心であると結ばれた。



# シリーズ～人物・いま～

## ●1998年度日本分析化学会・FIA分析研究懇談会FIA分析進歩賞を受賞



物質工学科

助教授

正留 隆

今年、日本分析化学会の研究懇談会のひとつであるフローインジェクション分析 (FIA) 研究懇談会に、FIA進歩賞が制定されました。その受賞資格は、『FIAに関する研究が独創的であり、将来を期待される研究者で受賞の年の4月1日で満40歳以下の研究者に贈呈する』となっています。私は、このたび『高性能界面活性剤電極検出器を用いる界面活性剤並びに高分子電解質のFIA法の開発』という研究課題で、1998年度日本分析化学会・FIA分析研究懇談会FIA分析進歩賞を、群馬大学工学部板橋助教授、高知大学農学部受田助教授の両先生とともに受賞しました。

受賞研究課題の内容を以下に示します。

界面活性剤は、消毒剤、殺菌剤、洗剤として広く利用されており、河川における汚染物質の一つになっています。また、界面活性剤の一種であるノニルフェノールは、今話題の「環境ホルモン」のひとつです。したがって、界面活性剤の高感度で迅速かつ簡便な分析法の開発が望まれています。従来の界面活性剤の分析法は、一般に分析操作が複雑であり、分析に長時間を要することなどの欠点を持っています。これらの従来の分析法の迅速分析法であるFIA法への応用も報告されています。しかしながら、これらのFIA法は装置が複雑で、有毒な有機溶媒を用いているなどの欠点を持っていました。そこで、私はこれらの従来の分析法の欠点を克服するため、界面活性剤イオンセンサを検出器とするFIA法を検討しました。まず、従来の界面活性剤イオンセンサの高性能化を検討したところ、

感應膜としてポリ塩化ビニルと可塑剤のみからなるものを用いることにより、陰、陽イオン性界面活性剤に応答するセンサを開発しました。なお、本研究で開発したセンサは国内メーカーより、市販実用化されています。私はこの開発した界面活性剤イオンセンサをFIA法の検出器へ応用し、イオン性界面活性剤および非イオン性界面活性剤の迅速分析法を開発しました。これによって、陽イオン性界面活性剤に対しては、河川水中の陽イオン性界面活性剤を直接定量することがはじめて可能になりました。また、洗剤中の非イオン性界面活性剤も直接定量することが可能となりました。

イオン性高分子電解質は、浄水処理場における凝集剤として利用されています。また、生化学的に重要な高分子電解質であるヘパリンの臨床への応用においては、その高精度の分析法の開発が期待されています。

従来のイオン性高分子電解質の定量法は、分析時間が長い、分析精度が悪いなどの欠点を持っています。そこで、私は従来の分析法の高精度化と迅速化を目的として、界面活性剤イオンをマーカーイオンとする界面活性剤イオンセンサを検出器とするFIA法を検討しました。これにより、環境水中の凝集剤などの高分子電解質試料の迅速なモニタリングが可能となりました。



(表彰式)

## ●九州地区高専 ラグビー・フットボール大会



### ■ラグビー部主将 4M 落石 和親

今年度の高専大会では、一回戦VS大分高専に勝利し二回戦に進出しました。二回戦では、惜しくも久留米高専にやぶれはしたものの、一回戦、二回戦ともに、自分たちの動きができ、これまでの大会で一番よかったです。来年は、これまでで、我がラグビー部が最強の年を迎えるので、目標はもちろん全国大会優勝です。創部以来、全国出場したことが一度もないのに、我々がラグビー部の歴史を塗りかえて見せます。応援よろしく！

## ●全国高専選抜 女子バスケットボール大会



### ■キャプテン 4A 坂上 美穂

11月20、21日に、東京都にある航空高専にて全国大会が開かれました。私たちは、初戦一勝したものの、課題の多い試合でした。2回戦は今までの練習の成果を出しきって試合にのぞんだのですが、残り5分で逆転され、結局は、相手チームに3点が次々入り、9点差で負けてしまいました。来年は、四国にて全国大会が開かれる予定です。まずは九州大会で優勝し、全国大会でも良い成績がだせるよう、部員みんなで頑張っていきたいと思います。

## ●資格取得 (平成10年度)

### ☆第2回工事担任者試験合格者

- ・デジタル第1種 4E 北島 健介
- ・デジタル第2種 4E 遠藤 泰史
- ・アナログ第1種 5E 松下 剛
- ・アナログ第3種 4E 高倉 秀利

## ●冬季球技大会

11月27日冬季球技大会が行われました。当日は雨天時のプログラムとなりましたが、白熱した試合が繰り広げられました。以下に結果を報告します。

### 【成績】

種目	優勝	M	V	P
バスケットボール	5 M	下村	卓児	
男子バレー	5 C	徳永	純一	
女子バレー	M連	浦崎	文香	
卓球	5 M	猿渡	健治	



## ●定期演奏会

1月16日の吹奏楽部第30回定期演奏会には、多数ご来場頂きありがとうございました。

『Festa di Speciale!』（イタリア語で「特別な日」という意味）というテーマのもと演奏している私達だけでなく、それを聞いて下さる人達一人一人にとっても、特別な日と感じられるような演奏会にしようとなっていました。部員全員が「定演成功」という1つの目標に向かい、協力し無事終わらせることができ感激して涙が止まりませんでした。私は長い歴史を築いてきた定期演奏会の実行委員長という役目を果たしたことを誇りに思います。実行委員長 3I 小宮 志保



### ☆電気主任技術者試験合格者

- ・第3種 5E 伊藤 豪章
- ・科目合格者
  - 5E 東 朋幸
  - 4E 北島 健介、田中 克史、堤 晋也
  - 4E 田中 克史
  - 3E 古賀 剛、田嶋 貢、中田 耕二
  - 藤丸 和博、松尾 智志、目野 宗利
  - 鍋田依一郎

## シリーズ クラブ紹介



【バレーボール部と映画研究愛好会の紹介です。】



バレーボール部



映画研究愛好会

### ■バレーボール部主将 4C 岸本 大志

こんにちは、バレーボール部です。

我々バレーボール部は、部員35人（5年生含）で女子部員も6名入部し、活気のある部活動を行っています。最近は、練習もただこなすだけではなく各自が考えながら向上心を持って練習することが出来ています。

この成果が出たのか、昨年の夏の高専大会では、全国大会に出場することができ、有明高専バレー部史上初めて全国大会1勝を手にすることができます。

言うまでもなく、今年の目標は昨年の成績を超えることです。具体的に言うなら全国制覇です。

今現在バレー部は、この大きな目標を達成するため日々努力しています。また女子部員も6名ながら、男子に混ざり高専大会初勝利をめざして練習しています。

バレーがしたいという方は、是非一度第2体育館のぞきにきてください。学校が終わったら家に帰るだけでどこかすっきりしないという毎日を過ごしているあなた！我々と一緒に全国制覇という目標をめざしてみませんか？素人大歓迎です。（実を言うと部員の半分近くは素人です。）老若男女問いません。我々と一緒に、充実した毎日を送りましょう。っと勧誘のようになってしましましたがとにかく、昨年、全国のレベルを肌で感じることができたので、その経験を生かして今年も強いバレー部になっていこうと思います。



SPORTS CLUB

### ■映画研究愛好会 4M 岡田 光弘

ぼくたちは、それほど活発な活動はしていませんが、毎月1~2回ほど視聴覚室においてビデオによる映画上映をしています。なつかしい名作から最新の話題作まで幅広いジャンルから選んで上映会を開くことで、映画に興味のある方はもちろん、興味のない方も見に来もらえるよう努力しています。

最近は「タイタニック」が世界的規模でブームを呼び、日本では「もののけ姫」に多数の方が押しかけました。今は、ビデオという安易な手段があるので、映画をビデオで見る人が多いようですが、映画は、やはり映画館で見るのが一番です。これを機会に映画館に足を運んでください。そして、ついでにぼくたち映研の上映作品も見てもらえると、いっそ映画に興味がわくんじゃないでしょうか。

球技大会の日はあいにく雨だったので、番外として、午後、「タイタニック」を上映したところ予想以上の人が集まり、とても好評でした。こういう企画もこれから考えて行ければと思っています。

今はぼくたちは、ただ見るだけでなく、ビデオによる映画制作を考えています。次回の高専祭に向けて何とか実現させたいと思っています。完成したら、ぜひ見に来てください。

部員は、現在、4年生が2名、3年生が7名です。映画に興味のある人はどんどん映研に入ってください。特に、1・2年生大歓迎です。上映のためのポスター作りや準備など、裏方の仕事も結構楽しいものですよ。

映画好き人間は映研に集まれ！

映研には3人の顧問の先生がおられて、ソフト面の指導は主に瀬戸・中本の両先生が、ハード面は中川先生が受けもっておられます。



# 学寮だより

## ●新寮長あいさつ 4M 篠 優一

平成10年12月1日から、新しく寮長に就任しました4年機械工学科の篠優一です。これまで1年間副寮長として頑張ってきましたが、4年ということもあって、先輩方に頼って動いてきたところがありました。これからは自分が先頭にたって指示を出す方へとなって、よりいっそう責任を感じています。11月にみえられた、有明高専OBで寮長をなされた倉本浩司さんのアドバイス、激励の言葉もあり、「全力投球」で頑張っていこうと思います。そして、新寮生会役員も発足し、副寮長の3M樋木君、4C中尾さん、総務書記4C徳本君、涉外4C岸本君や他の役員約20名の頼もしい人達を中心に、寮生全員に協力してもらしながら、寮の行事や問題点などに取り組んでいきたいと思います。

最近、寮生は通学生に比べて学力や生活面など、ややおとなしいところがあるので、寮の良いところを生かして活気のある寮にしていこうと思います。

また、上級生は後輩達がいることを自覚して模範となるような生活をして、共に助け合いながら、「ALL FOR ONE, ONE FOR ALL」ができるような寮生活になればいいなと思います。



大和君(左)から篠君(右)へバトンタッチ

## ■平成11年度 寮生会役員

寮長	4M 篠 優一
副寮長	3M 樋木 英司
副寮長	4C 中尾 友子
総務書記	4C 徳本 家康
涉外	4C 岸本 大志

局名	局長	副局長
会計	4I 田中 力	3E 木村 彰宏
風紀	3C 田中正輝	3M 三井洋一
整備	4C 田川勇氣	3E 久岡貞弘
体育	3C 江川 誠	1I 西川 真
厚生	4C 中本貴大	3M 金井武史
報道	3M 犬野佑介	2M 今任 渉
娯楽	4I 西山修一	3A 田中友一朗
写真	3M 藤嶋直之	2M 豊増和哉

### ★『OBセミナーの感想』

5M 時津 智史



私は、倉本先輩が寮生を対象としたOBセミナーでお話をしてくれると知った時から、それを楽しみにしていました。倉本先輩は岱明寮の寮長をされていました。同時に、機械工学科、ラグビー部の先輩であり、自分の引退前には是非会ってみたいと思っていました。

OBセミナーは倉本先輩が寮におられた頃の思い出話でしたが、私達寮生にも多かれ少なかれ同じよう

な経験があり、そのような自分達の経験も重ね合わせながら楽しく聞くことができました。特に1年生などは、1年目はきついことも多いでしょうが先輩の話が励みになったと思います。そして先輩が学生時代からモットーとされている『全力投球』の生き方は、私の良き手本したいと思います。

### ★『寮祭で得たもの』

3M 樋木 英司



名司会の樋木君(左)中山君(右)  
寮生全員でする寮祭は、大変な盛り上がりを見せた。自分は司会をしていて、相棒のシローとコンビを組み寮祭を盛り上げるのに必死だった。ステージに上がる時に、前回り受け身をして飛び込む司会者がいると思いますか? そう、それが相棒のシローなのです。各棟による劇やゲーム・宝くじなど全てのプログラムもいい雰囲気だったと思う。寮祭で得たものは数多くあるが、その中でも経験・自信・良き相棒を得たと思う。



### 〈消火・避難訓練〉

12/16夕方、荒尾消防署の御協力のもと消火・避難訓練を行いました。今年は、消火器による消火訓練のほか、全寮生による避難訓練も行いました。

# 新学生会活動



## 学生会長あいさつ

4C 田川 勇氣

学生会長の4C田川です。今度の学生会は25人中15人が新人というフレッシュな顔ぶれです。まだ仕事をうまくこなせていませんが、何事にも全力で取り組んでいこうと思います。

学生会行事はみなさん、学生が主役の行事です。学生会はただ、それをサポートするだけの機関であるので、行事はみなさん一人一人の力で成功させましょう。そのためどんどん学生会の活動に対する意見を述べ、自分が学校を動かす一員であることを認識し、責任をもって行動しましょう。

これから一年間よろしくお願いします。

## 平成11年度学生会新役員

会長	田川 勇氣 (4C)
副会長	岸本 大志 (4C)
	田中 力 (4I)
書記	杉山 香奈子 (4I)
涉外	江崎 愛 (4A)
	梶原 理宏 (2M)
会計	堀 真理恵 (4C)
	簗田 智史 (3M)
体育局	井口 美智子 (3C)
	鬼丸 恵介 (2A)
	犬東 伸樹 (3I)
	田川 裕佳 (2A)

文化局	杉山 香奈子 (4I)
	有吉 猛 (4M)
	甲斐 隆嗣 (2M)
	坂本 有佳子 (2C)
整備局	黒岩 雄喜 (4M)
	笠原 孝高 (3M)
	梅原 幸 (2C)
風紀局	平川 竜也 (4E)
	中野 佑紀 (3E)
報道局	湯村 知佳子 (4I)
	江川 誠 (3C)
	山田 佳代 (3C)
放送局	岩崎 理沙 (3I)
	今村 晶子 (2A)

## ■体育局クラブ・リーダー指導者研修

12月18・19日、福岡県立社会教育総合センターで標記研修会が行われた。参加者は各クラブから顧問教官1名、学生2名および学生主事室4名の計49名で、クラブ活動指導の在り方、スポーツ傷害事故を防止するための指導法とその対処法等について研修した。

全体会では事故予防法の基本やストレッチング、疲労回復法を学習し、特にスポーツマッサージ法については2人1組で実技練習を行った。分科会は3グループに分かれ、それぞれリーダーの役割、部員にやる気を起こさせるための指導法等について熱心な討議を行った。



# 建築設計競技

## ◎建築設計競技で今年も上位入賞

(社)福岡県建築士事務所協会主催の建築設計競技で昨年同様、今年も多数の入選を果たしました。課題は高校生の部が「環境にやさしい住宅」で、専門学校生の部が「ハーバーターミナル」で、なかなか難しい課題でした。

高校生の部では県内から85作品の応募があり、その中から3A高瀬正次君の「みどりのクジラ CLEAN における」が最高の知事賞を獲得しました。本校から2年連続の受賞となりました。

その他では、3A吉富寛子さんが銀賞を、安田佳代さんが佳作を、松本瑠美子さんと真弓弘之君が協会賞を受賞しました。昨年同様の成績でしたが、本校よりも多数の入選を果たした高校があったため、団体賞では優秀学校賞に次ぐ「学校努力賞」を獲得しました。

専門学校生の部の応募は291作品にも及び、その中から4A坂上美穂さんの「人魚の涙」が知事賞に次ぐ会長賞を獲得しました。その他では、4A藤田智子さんが銅賞を、安陪春香さんが協会賞を受賞しました。



■表彰式



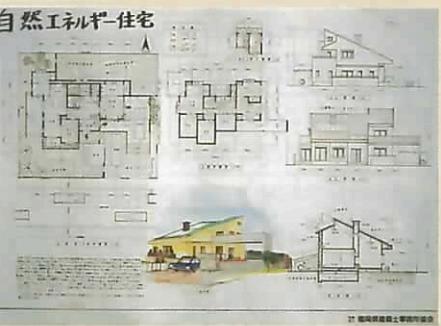
■知事賞 3A 高瀬正次君の作品



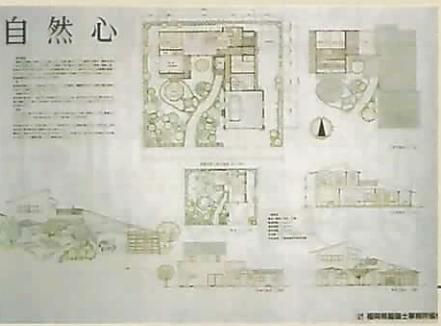
■会長賞 4A 坂上美穂さんの作品



■銅賞 4A 藤田智子さんの作品



■銀賞 3A 吉富寛子さんの作品



■佳作 3A 安田佳代さんの作品

## ～編集後記～

長い年月、周到な計画と準備そして強い意志のもとに欧州11ヶ国単一通貨ユーロが誕生した。有明高専ではアイデア対決・ロボットコンテストに向けアイデアの提案、検討そして製作と早くから取り組んだ結果、九州地区大会において優勝と技術賞を見事獲得した。また全国大会でも十分に実力を発揮できた。今年もいい年にしたい。今から楽しみである。

有明高専だより 第97号  
平成11年2月10日  
編集・有明高専広報委員会  
発行・有明工業高等専門学校  
〒836-8585  
大牟田市東萩尾町150  
TEL 0944-53-8611  
(庶務係)